Vol.88　リディアン♭7th スケールの実践練習　～その 1～

では、『10 分トレ』vol.88、始めていきましょう。

さて、前回のテキストと、別途配布している【教科書】の内容で、「リディアン♭7th・スケール」の基本的なポジションを弾いてみましたね。

実際は、それら以外の場所を使っても構わないのですが、インターバルなどが把握しやすいので大元のポジションとして覚えておきましょう。

で、今回は、早速、覚えたポジションを使ってみたいと思います。

リディアン♭7th の使いどころとしては、代表的なものに『4 度進行(ドミナント・モーション)をしないⅡ 7 とⅣ 7 の上』と言うものがあります。

これ以外にも使える時は多々あるのですが、とりあえずこの辺りが鉄板ですね。

「ドミナント・モーションをしない」なので、要するに、「Ⅴ→Ⅰに値する進行をしない」場合だ、と。

例えば key=C の曲で言うと、どこかで D7(II7)や F7(IV7)が出てきたとしたら、

・D7→G (or Gm or G7)　※G 音を 1 度とすると D 音は 5 度
・F7→B♭(or B♭m or B♭7)　※B♭音を 1 度とすると F 音は 5 度

の様な進行を“しない”場合、D リディアン♭7th や F リディアン♭7th が使える、と言う事ですね。

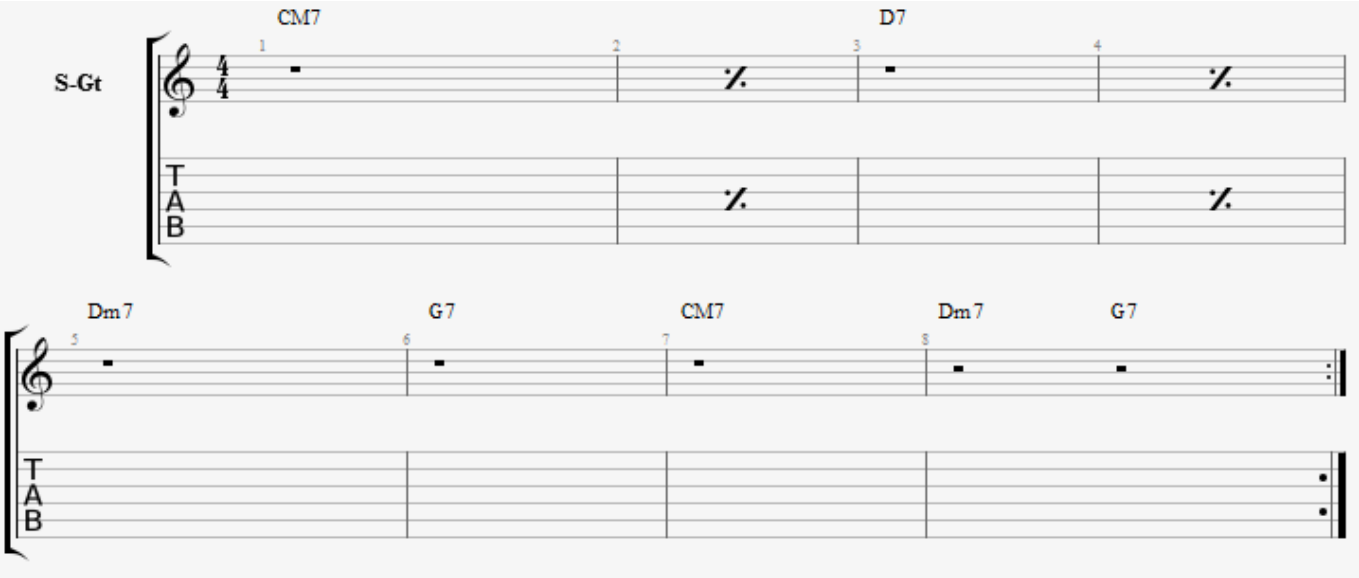
この辺りの理屈については後々解説しますので、まずはスケールを使う事に慣れてしまいましょうか。

いきなり 2 種類を扱うのは大変なので、今回はⅡ 7 の方で行きます。

題材は、ジャズ・スタンダードの Take the “A” train (A 列車で行こう)から抜粋した、以下の進行です。

譜例 1、key=C、Ⅰ－Ⅱ 7－Ⅱ m7－Ⅴ 7－Ⅰ、コード進行

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved



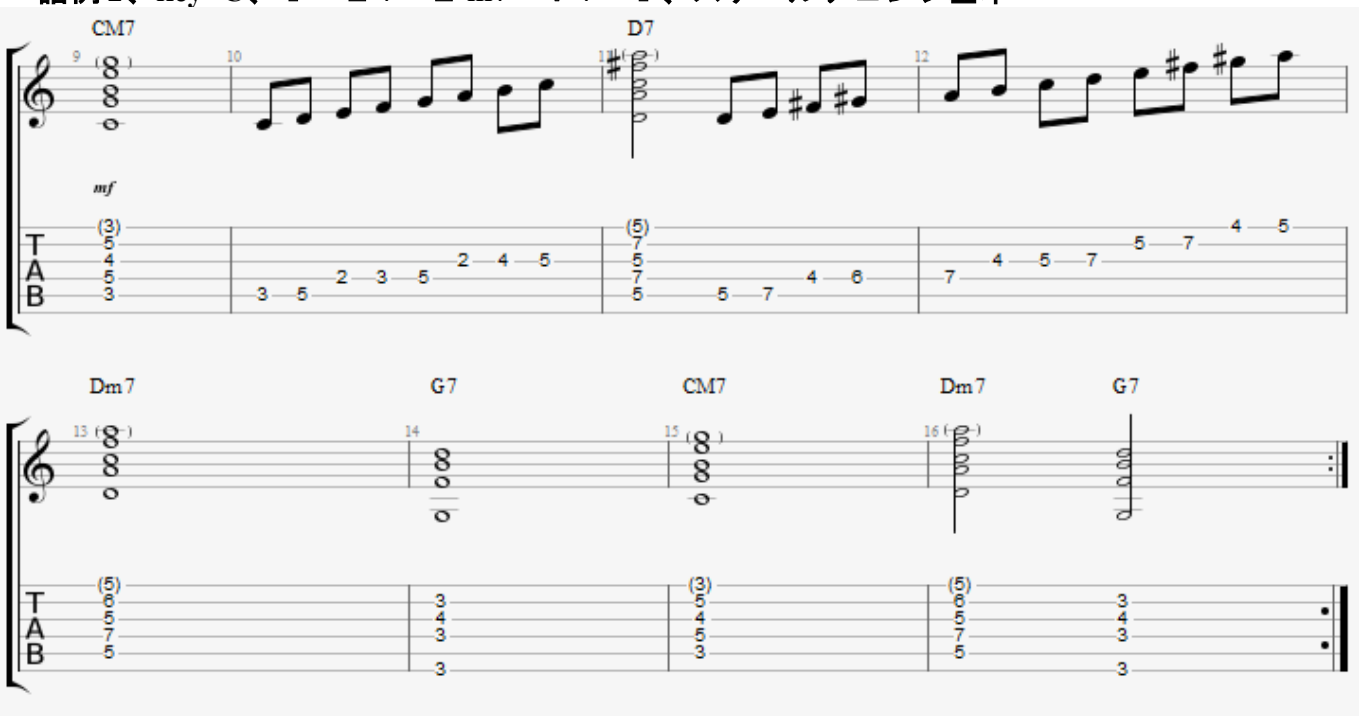
(※この曲の D7 コードは、D7(♭5)や D7(♯11)の様に表記されている事もあります)

この進行上の 3～4 小節目、D7 上で D リディアン♭7th を使います。

その他の部分は、ソロを取るなら C メジャースケールのみで弾ききれるので、メロディーを弾くなり、単にコードを鳴らすなり、自由にしてもらって構いません。

まずは、とりあえず素直にスケールをチェンジした譜例を弾いてみましょうか。

譜例 2、key=C、Ⅰ－Ⅱ7－Ⅱm7－Ⅴ7－Ⅰ、スケールチェンジ基本

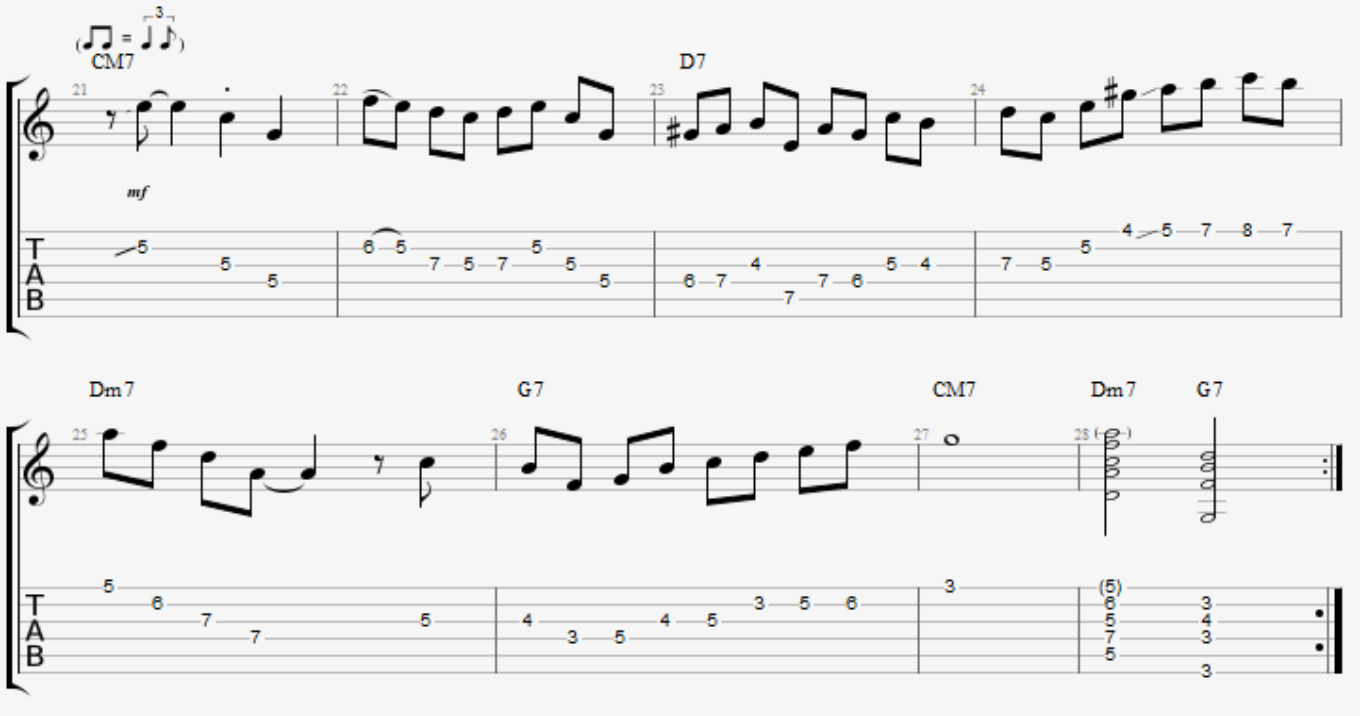


元がジャズの曲の進行なので、スウィングのリズムで弾いても良いですね。

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

これを基本に、少しメロディックなものを作ってみましょう。

譜例 3、key=C、Ⅰ－Ⅱ7－Ⅱm7－Ⅴ7－Ⅰ、D リディアン♭7th、サンプル



D7 以外の部分が C キーのダイアトニックに収まっている事もあり、リディアン♭7th の特徴が感じられますね。

響きが分かりやすくなるので、この譜例は少しジャズっぽい感じにしてみましたが、自分で練習する時は自由にフレーズを作ってみて下さい。

最初は、単純なスケール切り替えだけでも構いませんので。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved